

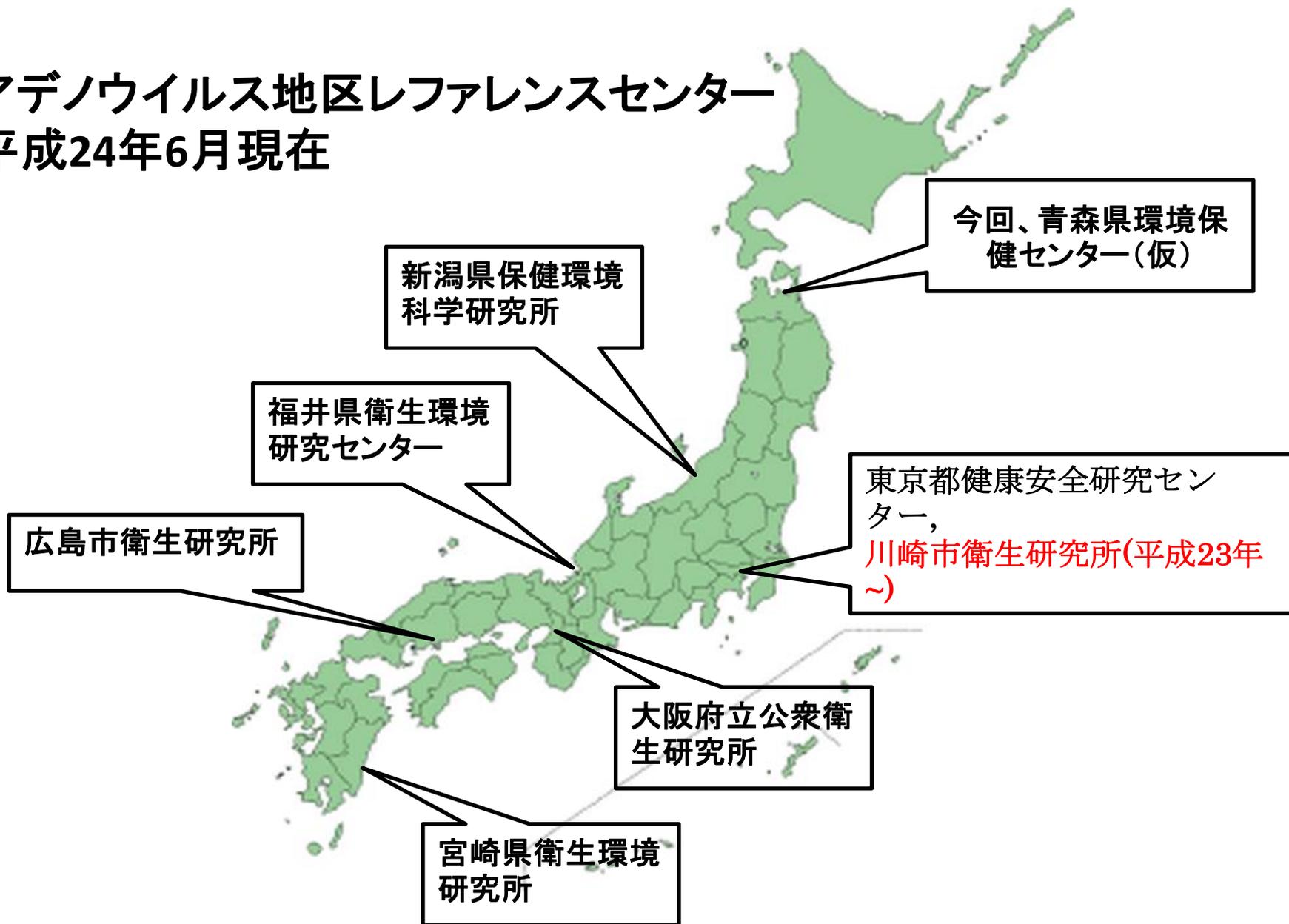
平成24年度
アデノウイルスレファレンス
センター会議報告

2012年6月28日

横浜市

世話人: 藤本嗣人(感染研)

アデノウイルス地区レファレンスセンター 平成24年6月現在



マニュアルの改訂

- 長らく改訂されていなかった病原体検査マニュアルの改訂作業を行った。

咽頭結膜熱・流行性角結膜炎

検査，診断マニュアル

(第2版)

平成24年5月

<http://www.nih.go.jp/niid/images/lab-manual/adenov5.pdf>

執筆者

第二版（本稿）

執筆者

藤本嗣人，花岡希，小長谷昌未：

国立感染症研究所 感染症情報センター

清水 英明，松島 勇紀，岡部信彦： 川崎市衛生研究所

榎本 美貴： 兵庫県立健康生活科学研究所

秋吉 京子： 神戸市環境保健研究所

中村 雅子： 福井県衛生環境研究センター

協力者

地区アデノウイルスレファレンスセンター（著者の川崎市衛生研究所，福井県衛生環境研究センターに加え，新潟県保健環境科学研究所，東京都健康安全研究センター，大阪府立公衆衛生研究所，広島市衛生研究所，宮崎県衛生環境研究所）

アデノウイルスレファレンスセンター 会議における検討結果

- 臨床検体から高感度のアデノウイルス検出用PCRを実施した場合、分離や型別用のPCRが陰性で、どうしても型別が出来ないで終わってしまう場合がある(東京都)
 - ⇒ (対応)Adenovirus not typed で報告し、検出した方法を備考欄に書いてください
- A549細胞によるアデノウイルス検出感度が他の細胞によるより高いので出来るだけ多くの地方衛生研究所の使用が望まれる(川崎市衛生研究所)
 - ⇒ (対応)出来るだけ、感染研から配布するようにします
- PCR法として、アデノウイルスの検出だけを目的とした場合どの方法が良いか
 - ⇒ (対応)マニュアルのPCR方法1が良いと思います。

北日本のレファレンスセンターとして、青森県衛生研究所も加わって頂くことを 事務局から提案したところ賛成多数で認められた。

2012年6月28日 AM10:45-11:45 ワークピア横浜 301会議室

組換えアデノウイルスの発生に伴う 対応

- ・近年、アデノウイルス 53 型や 54 型、56 型といった新型組換えアデノウイルスが発生し流行しており、これらのタイプは構造タンパクであるヘキソン、ペントンベース、ファイバーにおいて組換えが認められる。
- ・ヘキソン領域のみに焦点をあてて型別を行うことは、もし他の領域がヘキソンとは異なる型で構成される組換えアデノウイルスであった場合誤った報告をすることになるので注意しなければならない。
- ・世界で発生している他の新型組換えアデノウイルスもこれらの構造タンパク領域において組換えが認められていることから、ヘキソン、ペントンベースならびにファイバー領域に焦点をあてて検査を行うことにより、地方衛生研究所においてもアデノウイルスの組換えの有無を判定することが可能であると考えられる。

病原体検査マニュアルの改訂版ではヘキソン領域に加えて、ペントンベースならびにファイバー領域におけるプライマーセットを示し、A549 細胞による分離からの PCR ならびに DNA シークエンスを用いた正確な型別法を記載した。

アデノウイルス同定に関して

ヘキソン、ペントンベースならびにファイバー各領域における BLAST 解析を行い、各領域で最も一致率が高いアデノウイルスの型が一致するか否かを確認し組換えの有無を判定する。



NESID の入力の際に備考として penton/hexon/fiber を意味する P37/H22/F8 (組換え有りの場合) または P8/H8/F8 (組換え無しの場合) のように記載する。

ヘキシソンのみの型別の場合は H8、ヘキソンならびにペントンベースのみの型別の場合は P8/H8 のように、型別を行っていない場合はそれがわかるように記載する。

それでも同定できない場合

技術的には可能でも実際には、ルーチンでヘキソン、ペントンベース、ファイバーのPCRシーケンシングを実施することが困難な場合もあると思われる。

⇒ 行政検査で対応可能(感染症情報センター 第四室)

◎アデノウイルスの型別法について、54型までは固まったが、55以降の新型については、議論が続いている。

サーベイランスの立場から

- アデノウイルス56型は日本で流行している。そこで平成23年度の衛生微生物検査技術協議会のあと、NESID報告が出来るようにした。
- 分類学的な議論も重要であるが、**どの型が流行しているのかを分かりやすい形で把握することが、より重要**との判断に基づく。

地区レファレンスセンター・担当先生(敬称略)

- 1)北海道・東北・新潟地区:新潟県保健環境科学研究所 (渡部 香)
- 2)関東・甲・信・静地区:東京都健康安全研究センター(長谷川 道弥)
川崎市衛生研究所 (清水英明、松島勇紀)
- 3)東海・北陸地区:福井県衛生環境研究センター (山本希)
- 4)近畿地区:大阪府立公衆衛生研究所 (廣井 聡)
- 5)中国・四国地区:広島市衛生研究所 (田中 寛子)
- 6)九州地区:宮崎県衛生環境研究所微生物部 (三浦 美穂)

引き続き、よろしくお願い申し上げます。

世話役: 藤本嗣人、花岡希 (国立感染症研究所
感染症情報センター 第四室)

